

< 6人制小学生バレーボールコート設営 >

競技委員長 永田 和昭

*コート設営に指導者・保護者等混在して実施する場合は、作業前に設営班全体で事前ミーティングを実施し、個人の判断によるバラツキを防ぐこと！

1. マスキングテープ（消しテープ）処置

- (1) マスキングテープ（以下消しテープ）を貼る位置を会場競技責任者と打ち合わせし、決定する。コートラインと交差する可能性のある部分は、コートラインを貼る前に先行して消しテープを貼る
（マスキングテープ後で貼ると、コートラインと交差部分を切る必要があり、ゲーム中に剥がれ易くなることを防ぐ為）
- (2) ラインテープを貼りたい付近のペイントされた紛らわしいライン（特に白系ペイント）は、ライン貼付箇所から50cm程度を目隠しする
- (3) 支柱立て穴の金属のふた、床の割れ目やくぼみなど危険箇所をふさぐ
（特にコート内の塞いだ部分については、消しテープの角をカットする：剥がれ防止）
- (4) 消しテープを張った後に気泡が残った場合は、剥がれ易くなる為、カッターの先でつぶして床にしっかり貼る

2. ラインテープを貼る

- (1) 2人組で作業するが、テープの端を持つ側で、スタートの向きがゆがんでいると上手く貼れないので、端を押さえる側の方は貼りたい方向にまっすぐ置くようにする
- (2) コートの横ラインから先に貼り、すべての横のラインを貼ったのち縦のラインを貼る
（アタックライン付近では横ラインが上の場合 剥がれ易くなる為）
 - ・エンドとサイドのラインは採寸（8m×16m）の内側
 - ・アタックラインは採寸（センターライン中央から2.7m）のネット寄りに貼る
- (3) アタックラインの延長に貼る破線は4本で、サイドライン外側の縁から1.4mとするサブституーション（選手交代）ゾーン及び、フロントゾーンとバックゾーンを区別するためのラインで、正式には両側に作成することが正しいが、福岡県小連ではファーストレフェリー側は作成しない運用としている。
- (4) ラインテープを張った後に気泡が残った場合は、剥がれ易くなる為、カッターの先でつぶして床にしっかり貼る

3. フリーゾーン（選手の競技可能エリア）を確保する。

コート周囲、最低3m×3mのフリーゾーンを確保する

サイド側：複数コート設営の場合は全てのコート均等になるよう配慮する

エンド側：3m～6.5mの範囲で、後方が広い場合は防球盾で区切る

4. ウォームアップゾーンを作成する

3×3m以内にて会場の規模を考慮して設営するが、フリーゾーン内に入らないように考慮することが望ましい。フリーゾーン後方に作成の場合、エンドライン後方が広く取られている場合は、選手交代の控え選手の遅れにつながるので注意。

フリーゾーン後方へ作成できない場合は、ベンチ斜め後方でも可